

《楽曲解説》

解説＝野本 由紀夫

9/10 第86回サントリー定期シリーズ

9/11 第96回東京オペラシティ定期シリーズ

サントリー

9/10

オペラシティ

9/11

オーチャード

9/22

本日の定期演奏会について

首席客演指揮者となったバッティストーニと東京フィルの直近の定期演奏会といえば、今年5月の『トウランドット』のコンサート・オペラ上演と、イタリアン・シンフォニック・プログラムがすごかった。ブラボーの嵐、鳥肌立つ大熱演であった。東京フィルが新しい時代に入ったことを内外に示した、間違いなく画期的な名演を経験したのである。

9月もバッティストーニの意欲的なプログラムである。

ずばりテーマは、「ロシア」であろう。たとえばラフマニノフとムソルグスキーを取り上げているのだから。しかも、ラフマニノフは「絵画的練習曲」、ムソルグスキーは『展覧会の絵』と、「絵画」つながりにしているのも面白い。

しかし、テーマ性はもっともっと奥が深いようだ。なにしろ、バッティストーニが得意とするヴェルディの『運命の力』は、初稿の初演が Санкт-Петербург、つまりロシアなのだ。ラフマニノフとムソルグスキーのピアノ曲集をオーケストラ編曲するように委嘱した人物も、ロシア出身の大指揮者、クーセヴィツキーであった。

これだけではない。どうやら「イタリア」とのつながりも考えられているようだ。ヴェルディもイタリア人だが、ラフマニノフが取り上げたパガニーニも、言うまでもなくイタリアのヴァイオリンの鬼才であった。さらに、ラフマニノフのピアノ曲をアレンジしたのは、イタリア人のレスピーギなのである。

まだ20代のバッティストーニ、恐るべし！ 今月も興奮のつぼとなるだろう。